



「心の汚染」と「地球環境破壊」を考える

哲学的人間学・環境学・臨床心理学

甲南大学 文学部 人間科学科
谷口 文章 教授



レポーター 内山チエミ
「心の汚染」と「地球環境破壊」を考える

中自由に人形や動物、車などの模型を配置
クライエントに掃で回られた砂の入った箱の
若年層のカウンセリングに効果的な療法です
これは心理学で用いられる遊戯療法の一環で、
続いて行われたのが「箱庭療法」の実習

「箱庭療法」の実習
この心理学で用いられる遊戯療法の一環で、
若年層のカウンセリングに効果的な療法です
クライエントに掃で回られた砂の入った箱の
中に自由に人形や動物、車などの模型を配置

合宿のスケジュールは、1日目が開会式と
3年生のゼミ論発表、2日目は3時までが前
日に引き続きの3年生のゼミ論発表、その
後、箱庭療法の実習、そして谷口先生の講演
3日目は4年生、研究生の論文発表、箱庭療
法実習、閉会式という流れでした。その他、
人と自然の博物館見学や深夜まで続く親睦会
(飲み会) もしっかり予定されていました。

合宿のスケジュールは、1日目が開会式と
3年生のゼミ論発表、2日目は3時までが前
日に引き続きの3年生のゼミ論発表、その
後、箱庭療法の実習、そして谷口先生の講演
3日目は4年生、研究生の論文発表、箱庭療
法実習、閉会式という流れでした。その他、
人と自然の博物館見学や深夜まで続く親睦会
(飲み会) もしっかり予定されていました。

今月の「チェミの突撃! セミ訪問」は関
西地区大学ゼミナールハウスからお送りしま
す。実はこのたび、「突撃! セミ訪問」史上
初の試みで、甲南大学文学部谷口教授のゼミ
合宿に参加させていただいたのです。そんな
に大げさに言うほどのことでもないか……
ところで、合宿は新大阪駅からJR宝塚線
で約40分の兵庫県三田市にある、関西地区
大学ゼミナールハウスで行われました。合宿の
参加者は22人、3年生と4年生が大部分で
すが、中にはゼミのBや他大学、社会人の聴
講生もいらして、とても和やかな雰囲気
で始まりました。

させることによって、その時々心理状態を
反映させるというわけです。ここでは、ゼミ
生の1人が作った作品について、みんなが率
直な感想を言い合い、さらにその感想につ
いて先生がコメントされ、作品の診断をされる
という進め方でした。この実習にはチェミも
ちゃっかり参加させていただいて、診断して
いただいたのですが、先生の指摘があまり
にピンポイントで、診断内容については、もちろ
んヒミツです。

させることによって、その時々心理状態を
反映させるというわけです。ここでは、ゼミ
生の1人が作った作品について、みんなが率
直な感想を言い合い、さらにその感想につ
いて先生がコメントされ、作品の診断をされる
という進め方でした。この実習にはチェミも
ちゃっかり参加させていただいて、診断して
いただいたのですが、先生の指摘があまり
にピンポイントで、診断内容については、もちろ
んヒミツです。

その後は、先生の「箱庭療法の診断性につ
いて」という講演、実例をスライドに写しな
がらの説明で、初めて受ける講義ながら、大
変興味深く拝聴させていただきました。また
途中、チェミも何度か発言を促されて冷や汗
モンでした。しかし、ふだんの自分の講義よ
り集中できたような気がします。ハイ……
ところで、合宿のレポートはここまでにし
て、ここからはいつものようにゼミのシステ
ムについて紹介させていただきます。

その後は、先生の「箱庭療法の診断性につ
いて」という講演、実例をスライドに写しな
がらの説明で、初めて受ける講義ながら、大
変興味深く拝聴させていただきました。また
途中、チェミも何度か発言を促されて冷や汗
モンでした。しかし、ふだんの自分の講義よ
り集中できたような気がします。ハイ……
ところで、合宿のレポートはここまでにし
て、ここからはいつものようにゼミのシステ
ムについて紹介させていただきます。

その後は、先生の「箱庭療法の診断性につ
いて」という講演、実例をスライドに写しな
がらの説明で、初めて受ける講義ながら、大
変興味深く拝聴させていただきました。また
途中、チェミも何度か発言を促されて冷や汗
モンでした。しかし、ふだんの自分の講義よ
り集中できたような気がします。ハイ……
ところで、合宿のレポートはここまでにし
て、ここからはいつものようにゼミのシステ
ムについて紹介させていただきます。

「大きく言うと、自分とは何か?、また、人
間とは何か?」を学んでいます。具体的には
人間を哲学的側面から理論的に研究し、人
間の「こころ」を心理学から臨床的に把握す
る。さらに、そのようにしてわかった「自分
」について、置かれている「環境」から再び検
討していくということです。わかりやすく言
うと、「心の汚染」内なる環境汚染が、地球
環境破壊以外の環境破壊をもたらしたと
考え、環境問題を考えるには、人間中心主義

谷口 文章(たにぐち・ふみあき)先生



1946年6月18日生まれ、兵庫県芦屋市出身。甲南高校から甲南大学へ進学され、さらに大阪大学大学院文学研究科へ。その後、甲南大学助教授を経て、現職の甲南大学文学部教授に。先生の活動範囲は大変広く、学外でも「身障」の関係上、日本環境教育学会常任運営委員、日本保健医療行動科学会理事、魚沼市社会教育委員などを務められる。著書には、「現代思想のトポロジー(共著)」、「法律文化社」、「哲学事典(共著)」、「富士書店」、「環境とライフスタイル(共著)」、「有斐閣」など。ご趣味は、読書、自然散策、動物の飼育とのこと。

をやめ、人間も自然の一部という原点にまで戻らなければならないということなのです。というわけで、私の専門分野は哲学的人間学から臨床心理学、環境学にまで広がるのです。先生の専門はずいぶん多岐にわたっていらっしゃるのですね。しかし、こうしてお話をおうかがいしていると、一見別の分野のように思われることが本当はつながっているんだなど考えさせられますね。それでは、ゼミの活動がどのように進められるのか教えてください。

合宿に参加したゼミのみなさんと。「天気がいいから外で撮りましょう」という先生の一声で、みなさん集まってきました。



恒例の研修旅行で鹿児島県の屋久島に、屋久杉の実態調査に、復讐からまわりあふ木の根に、生命力のものがすごさを感じますね。



「ふだんの活動はと言いますと、週に1回2時間ほど『応用哲学』の文献講読の時間があります。3年も4年も共通の参考文献を読み進めながら、発表の仕方を学んでいきます。そのほかには、研究室の活動記録を年ごとに1冊の本にまとめるという作業をします。授業の空き時間や放課後を利用して、学生が自主的に集まり、制作します。学生から提出されたレポートのリライト、行事や学会・公開講座の報告、卒論、教員論文などを紹介するもので、1年間分がほしい2000ページくらいにもなる、なかなかの大作です。

年間行事で主なものについてお話ししますと、まず6月に田植えをし、9月に稲刈りをします。農業を使用しない有機農法に実際に



有機農法の実践というところで、田植えを、みんなが泥んこになってとても楽しそう。

携わりながら、環境問題を考えようという試みです。これにはおまけがあって、10月の学園祭では稲といっしょに植えておいたサツマイモを収穫して、焼きいもにして売り出します。もちろん、私も店出しには協力しますよ(笑)。そして、9月には学生が自主的に企画・運営する1週間程度の研修旅行を行います。昨年は屋久杉の実態調査のために屋久島に行きましたが、これまでは水俣病調査のために水俣を訪れたり、奇形ザルの調査で淡路島や宮島に行った年もあります。そうして、1年間の総まとめということで3月に暮合宿をやりまます。このときに4年生は1月に提出した卒論の発表も行います。

ゼミは、ゼミの合宿というものに参加す

るのは今回が初めてだったのですが、とても楽しく過ごさせていただきました。ゼミのみなさんの印象はというと、「思いっきり遊べない者は思いっきり勉強することもできない」という先生のモットー(?)が本当によく伝わっているという感じで、みなさんイキイキしていらっしやうらやましいくらいでした。

ゼミ生インタビュー 谷口先生のゼミを選んだワケは?



長谷川直子さん
(4年)
兵庫・
県立加古川東高校卒

谷口先生のゼミを選んだのは、専門講義で受けた「イメージトレーニング」という講義がとても興味深かったこと、哲学・環境・心理を総合的な面から研究できるゼミだったからです。このゼミのいいところは、何をやることも許されるし、なんでも研究できるところです。



庄 美穂子さん
(4年)
兵庫・
県立姫路東高校卒

谷口先生は友達の前指導教官だったんで、よ、それで、友達にくっついて先生のところに通っているうちに、先生のお人柄のよさと感性の鋭さに感動して、このゼミに入ることに決めました。もちろん、友達もいっしょです。うちのゼミはフィールドワークと学会活動が多いのが魅力なんです。